



「社会の一員として！」

4階の大便器の中にトイレットペーパーを芯ごと入れるといういたずらが少し前にありました。トイレットペーパーがまるごとどのようにしてトイレの便器に落ちたかはわかりませんが、誰かが落としたことは紛れもない事実です。誰かが落としたのかそれとも自然に落ちてしまったのかは確定できませんが、便器に入ったトイレットペーパーを誰も取り除くこともしないで、その場を去ってしまったことも事実です。便器からトイレットペーパーを取り除こうとして、うまく取り除くことができなかったとしても、教師に「トイレットペーパーを落としてしまいました。」と報告をしないで、そのまま立ち去ったことも事実です。

芯ごとトイレットペーパーが便器に入っている状態では次の人が使えなくなることは少し考えればわかることです。不注意で便器に落としたとしても、「①落とした物を取り除く。②取り除けない場合は、先生に報告する。③次にトイレを使用する人が使えない。」というように三つのことに対処しなければなりません。このように不注意で起こしたミスに対してもすぐに行わなければならないことがあるわけです。これを道義的責任といいます。社会で生活していく中で人としてとるべきモラルや状況を考えて行動が求められます。

ちなみに、トイレットペーパーを意図的に落としたらこれは犯罪で、法的責任が問われます。自分は、そんなことをする気持ちはなかった。わざとしたのではない。そのようなときにも常に道義的責任が問われることを知っておいてください。

不正や悪い行為を見た、そのようなときもその行為を放置しておくことは社会にとって大きなマイナスとなります。私たちは、それを止めたり、注意したりすることが大切です。それができないときには警察や先生に伝えたりすることが求められます。これも道義的な責任の一つです。社会を構成する一員としての責任が一人ひとりにあることを自覚してほしいと思います。